

実践のまとめ（第3学年 社会科）

令和6年11月15日
見附市立南中学校
教諭 真保 祐弥

1 研究テーマ

社会的事象に関心を持ち、根拠のある意見を表現できる生徒の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

- ① 公民的分野の学習は、「公民としての資質・能力」の育成を目指す中学校社会科の学習の集大成と考えている。生徒が、よりよい社会の形成に参画する態度を身に付けられるよう、日頃から、社会的事象に関心を持ち、課題を見出し、その解決に向けて自分の意見を形成する授業を実践する。
- ② 生徒が生活経験とともに既習の学習を生かしながら、社会的な見方・考え方を働かせて考察し、根拠のある意見を形成できる授業を、年間を通して継続する。

(2) 研究テーマに迫るために

- ① 生徒の問いや願いを大切に、単元を貫く学習課題を設定する。
ア アンケートを実施して生徒のレディネスを把握し、課題設定の手がかりにする。
イ 生徒の予想や疑問を基に単元を構想する。
- ② 根拠のある意見をつくる必然性を生徒が納得する学習課題や活動で設定する。
「日本は、投票を棄権したら罰則！賛成か反対か」という課題を設定し、討論活動を設定する。
- ③ 生徒が根拠のある意見を表現できるよう、資料やワークシートを工夫する。
ア リーディングスキルや「南中学校授業ユニバーサルデザイン」の視点から資料を作成する。
イ OPP（ワンペーパーポートフォリオ）に単元の学びを記録させ、学習してきた内容を根拠に意見を形成できるように促す。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ① ワークシートを中心に生徒の記述を分析し、根拠のある意見を記述できている割合から評価する。
- ② 単元の学習前と後の生徒の意識や記述を比較し、生徒の変容を評価する。
ア 単元の学習前と後で、アンケート調査を行い、政治や選挙に対する生徒の意識を比較する。
イ OPPシートやワークシートの生徒の記述から、生徒の変容を評価する。

3 単元と指導計画

(1) 単元名 「日本の民主主義のよいところを生かすにはどのような工夫が必要か」

公民的分野 (2)民主政治と政治参加 第3章 私たちの暮らしと民主政治 1節 民主政治と日本の政治（教科書名 教育出版）

(2) 単元の目標

- ① 民主政治のしくみや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理を理解する。
- ② 民主政治の推進と国民の政治参加との関連、義務選挙制の是非について、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。
- ③ 国民主権を担う公民として、民主政治の発展に寄与しようとする態度を育てる。

(3) 単元の評価規準

① 知識・技能	② 思考力・判断力・表現力	③ 主体的に学習に取り組む態度
ア 議会制民主主義における選挙の意義や政党の役割を理解している。 イ 民主主義や日本の選挙政治、それらの課題について理	ア 義務選挙制の是非について考察することを通して、民意を国政に反映させる投票の意義について考えている。 イ マスメディアの特色を比較	ア 日本の民主政治について、課題を見出して関心を高めている。 イ 国の政治に関心を持ち、選挙のしくみや課題について追

解している。	し、世論の形成への影響について考えている。 ウ 民主政治の発展に重要な点を構想して表現している。	及しようとしている。 ウ 義務選挙制の是非や民主政治の発展に関して、自分の意見をもとうとしている。
--------	---	--

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全 10 時間)

次 (時 数)	・学習内容	学習活動 ■予想される生徒の反応	主な評価規準と方法 (評価方法は【】)
1 (1)	・民主政治ってなんだろう 「本当に民主主義は最悪の政治体制か」	生徒の民主主義に対する認識についてのアンケートを確認する。 ■自分たちの意見を政治に反映できるから民主主義がよい。 ■よい主義や制度であると習ってきた。 チャーチルの言葉から、民主政治（間接民主制と直接民主制）と独裁政治のメリットとデメリットを考察する。 ■間接民主制は、自分たちが選んだ代表者が政治をするから納得できる。選んだ人が代表者になるとは限らない。効率と公正のバランスがよい。 ■直接民主制はすべての人が意見を言えるから、より公正な政治が行えるけれど、多くの時間がかかる。 ■独裁政治では、権利や自由が奪われるかもしれない。民主政治は、自分たちの意見で物事が決まるからよい。	民主主義（民主政治）や間接民主制、直接民主制、多数決の原理の長所と短所について、効率と公正の視点から記述している。 【思考・判断・表現】 【ワークシート】
	【単元を貫く学習課題】日本の民主主義のよいところを生かすにはどのような工夫が必要か		単元を貫く学習課題に対する自分の予想を記入している。 【主体的に学習に向かう態度】 【ワークシート】
2 (1)	◎民主主義のよさを生かすために、日本の選挙はどのような仕組みになっているか		
	・国民の代表を選ぶ選挙の意義、日本の選挙制度	民主主義のよさを生かす公正な選挙のあり方を理解する。 小選挙区制と比例代表制を効率と公正の視点から比較する。 ■死票が出る小選挙区制に併せて比例代表制を採用し、より多く民意を政治に反映させようとしている。	選挙の四原則や日本の選挙制度、その制度を採用している理由を理解している。 【知識・理解】 【ワークシート】
3 (2)	◎日本の選挙にはどのような課題があり、どのように解決が目指されているか		
	・日本の選挙の課題「投票率の低さとシルバー民主主義」「一票の格差」	資料「衆議院議員選挙の年齢別投票率の推移」や「衆議院議員一人あたりの有権者数」から日本の選挙の課題を考察する。 ■全体の投票率が55.93%だと、多くの国民の意見を反映した政治にならない。 ■若者の投票率が低いから、若者の意見が政治に反映されず、高齢者向けの政策が重視されるかもしれない。	

		<p>■投票率が低いと選挙や議会の決定の信頼性も低下する。</p> <p>資料集や教科書から選挙の課題や解決策を調べる。</p> <p>■投票率向上に向けて、期日前投票などの環境整備が進んでいる。</p> <p>■オーストラリアは投票を棄権した人に罰則を設けている（義務投票制）。</p> <p>■投票率が高いスウェーデンでは、主権者教育に力を入れている。</p>	<p>資料から日本の選挙の課題やその解決策を多面的・多角的に考察している。</p> <p><u>思考・表現・判断</u> 【ワークシート】</p>
4 (3) 本時 7/10	<p>◎「日本は、投票を棄権したら罰則！賛成か反対か」</p> <p>①自分の意見をもつ（5/10時間）</p> <p>②同じ立場の仲間との意見交換（6/10時間）</p> <p>③学習課題について議論（7/10時間）</p>	<p>前時の学習の成果を基にして本時の課題を設定する。</p> <p>タブレットPCや資料を基に根拠のある意見をワークシートに記述する。</p> <p>同じ立場の仲間と意見交換を行い、根拠を明確にしたり、反対の立場から反論に備えたりする。</p> <p>「日本は、投票を棄権したら罰則！賛成か反対か」について議論し、日本の民主主義のよさを生かすために大切なことを考える。</p>	<p>義務選挙制の是非について考察することを通して、民意を国政に反映させる投票を意義について考えている。</p> <p><u>思考・表現・判断</u> 【ワークシート】</p>
5 (1)	<p>◎投票の際、たくさんの政党の中から選べることはよいことか</p> <p>・願いをかなえる政党政治</p>	<p>実在する政党と公約の一覧を基に政党の意義と役割、多党制の利点と課題を考える。</p> <p>■社会にある様々な意見を代表し、政策をつくり実現するために政党がある。</p> <p>■政権を担当することを目指して政党間が競争している。</p> <p>■少数意見も反映できるが、多様な政党があることで、政党間の対立が起こり、政治がまとまりにくくなる。</p>	<p>議会制民主主義における政党の役割を理解している。</p> <p><u>知識・技能</u> 【ワークシート】</p>
6 (1)	<p>◎インターネットやSNSが広がる中、私たちはどのようにして世論をつくるべきか</p> <p>・マスメディアと政治、世論とマスメディアの役割</p>	<p>同日の新聞記事やネットニュース、SNSの情報を比較し、マスメディアの特色を理解し、情報を入手するときの注意点を考える。</p> <p>■様々な情報を入手し、正確に情報を選択する。SNSで政治に関する意見を得るときは情報源に注意し、複数の記事を見比べる。</p>	<p>マスメディアの特色を比較し、世論の形成への影響について考えている。</p> <p><u>思考・表現・判断</u> 【ワークシート】</p>
7 (1)	<p>◎民主主義のよさを生かすにはどのような工夫が必要か、レポートにまとめよう</p> <p>・単元を貫く学習課題についてレポートにまとめる</p>	<p>単元を貫く学習課題についての考えをまとめる。</p> <p>■民主主義のよさが発揮されるために、さまざまな立場の意見が反映される工夫が大切だと思う。18歳になって有権者になったら、政治について進んで調べ、投票を通して自分の意見を政治に伝えること</p>	<p>民主政治の発展に重要な点を構想して表現している。</p> <p><u>思考・表現・判断</u> 【ワークシート】</p> <p>民主政治の発展に関して、意見をもととしてしている。</p>

		が大切だと思った。	主体的に学習に向かう態度 【ワークシート】
--	--	-----------	--------------------------

4 単元と生徒

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領（平成 29 年告示）の公民的分野 C「私たちの政治」の(2)「民主政治と政治参加」の部分にあたる。ここでは、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

「国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割」、「議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について」理解する。「我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚」を育成することに向けて、「民主政治の推進と公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察し、構想し、表現する。」

現在の日本は、急速に変化する国内外の社会情勢に対応するため、主権者として、国民一人一人が政治に関心を高め、国民の意思を国政に反映させることが非常に重要である。しかし、投票率は年々低下するなど、国民の政治に対する関心の低さが問題となっている。平成 28 年 6 月に公職選挙法等の一部を改正する法律が施行し、選挙権が満 18 歳に引き下げられた。それに伴い、学校教育における主権者教育がますます重要となった。義務教育を修了する中学 3 年生において、主権者教育は意義があるといえる。この単元では、議会制民主主義に関する学習を通して、民主政治が国民の自由や権利を守るとともに、国民の意思の反映をはかる仕組みとなっていること、国民の積極的な政治参加により民主政治を推進することが大切であること理解させ、人間を尊重し、自由と権利を保障する民主政治を守り、発展させようとする意欲や態度を養いたい。

(2) 生徒の実態

3 年 2 組の生徒は、男子 13 人、女子 17 人の計 30 人である。親和的な集団で、話し合い活動にも積極的に取り組むことができる。一方で、相手に分かりやすく伝えることが苦手な生徒も少なくない。

民主主義や政治、選挙に対する生徒の意識を把握するためのアンケート（N=29）を 10 月に実施した。下記は、そのアンケートの結果である。

1 民主主義はよいものだと思いますか。			
大変よいもの (44.8%)	よいもの (55.2%)	あまりよいものではない (0%)	よいものでない (0%)
肯定的回答の主な理由 「社会には様々な人がいて、それぞれに意見があって、なるべく多くの人が合意できるような社会だから。」 「みんなで話し合って意見が出せるから。でもみんなで話し合うと時間がすごくかかる。」 「多分、専制政治とかよりは大人数の意見を反映できるから。」			
2 「政治」に関心がありますか。			
大変関心がある (0%)	関心がある (37.9%)	あまり関心がない (62.1%)	関心がない (0%)
「関心がある」の主な理由 ・税金がかかるばかりで日本の将来が心配だから。 ・自分たちが住む日本が変わるかもしれないから。自分の生活に関わるから。 「あまり関心がない」の理由 ・とても難しそうだから。 ・政治に関わっている実感がないから。選挙に行けないから。			
3 選挙権を得たら、選挙に行き投票をしますか。			
選挙に行く (79.3%)	選挙に行かない (6.9%)	分からない (13.8%)	
「選挙に行く」の主な理由 ・多くの人が投票に参加することで、より多様な意見が反映され将来にもつながると思ったから。 ・自分たち（若い世代）に寄り添ってほしいから。 ・政治に自分の意見が少しでも届くなら、そうしないよりはマシだから。 「選挙に行かない」の主な理由 ・めんどくさいから。 「分からない」の主な理由 ・自分が選挙に行くときに、この人に投票したいと思う人がいるとは限らないから。 ・自分がまだ政治のことについてあまり分かっていないから。			

アンケートから、民主主義の考え方を肯定的に捉えていることが分かる。このような認識をもっている生徒たちが、イギリスの首相であったチャーチルの「民主主義は最悪な政治形態だ」という言葉を聞いたとき、自分たちの認識とのズレに「なぜ民主主義が最悪の政治なのだろう」と疑問を抱くはずである。その疑問を生かし、民主主義をよい面とそうでない面を考察する活動につなげたい。この活動を通して、単元を貫く学習課題「日本の民主主義のよいところを生かすにはどのような工夫が必要か」を設定する。単元冒頭の生徒の予想には、「選挙に行くこと」や「慎重に議論すること」、「少数派を尊重すること」などが挙げられるだろう。

選挙（投票）や政治に対するアンケートでは、投票行動に消極的な生徒（「行かない」もしくは「分からない」と回答）が約 20%いることが分かった。その理由は、政治に対して「難しい」という印象をもっていることや、政治に「関心がもてない」という実態があることが分かった。こうした投票や政治に対する生徒の認識は、現代の日本の若年層が投票を棄権する主な理由と重なる。生徒の実態を受けて、日本の選挙の課題である国政選挙における投票率の低さを取り上げる。有権者が投票を棄権している理由や、投票率低下が日本の議会制民主主義にもたらす問題を考察する中で、生徒に投票率の低さに対する問題意識をもたせたい。問題意識をもった生徒は、日本国内で実施されている投票率を高めるため方法や制度、投票率が高い諸外国の取組に関心をもつだろう。

こうした学習を経て、生徒に投票の棄権に罰則を設ける義務投票制の採用に賛成か、反対かを問う。義務制に賛成する生徒は、投票の棄権に罰則を設け、投票を義務化した国で投票率が高まっていることや、政治への正当性や世代間の不公平の改善を根拠にするとと思われる。義務制に反対する生徒は、国民の権利や自由や、義務化に伴う無効票や白票など投票の質の低下を根拠にすることが予想される。賛成・反対の立場に分かれて議論を行うことを通して、議会制民主主義における投票の意義を深く考えさせたい。このような学習過程を経て、投票が国民の意思を政治に反映させる最も重要な手段であり、政治を通して政策や法律がつくられ、よりよい社会の実現が目指されていることを理解させる。

5 本時について

(1) 本時のねらい

- ①「日本は選挙を義務制にすべき。賛成か反対か」について、根拠を示して自分の意見を説明することができる。
- ②よりよい民主主義の実現に向けて、どのような態度で投票に臨むべきか記述することができる。

(2) 本時の展開

	・学習活動, T 教師の働きかけや発問, S 生徒の反応 太字は公民的な見方・考え方を踏まえた記述 波線は根拠	支援・, 評価◆
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時まで学習を振り返る。 T 「単元を貫く学習課題を確認しましょう。」 S 「『日本の民主主義が発展するためにはどのような工夫が必要か』」 T 「今私たちが学習している課題は何でしたか。」 S 「日本は選挙を義務化すべきか。」 ・本時の学習課題を確認する。 T 「そうです。私たちは『日本は選挙を義務制にすべき。賛成か反対か』について考え、自分の意見を作ってきました。」 「今日は、『日本は選挙を義務制にすべき』か、話し合います。そして、日本の民主主義の発展を考えましょう。」 	

展開
40分

◎「日本は、投票を棄権したら罰則！あなたは賛成か反対か」について議論し、民主主義のよさを生かすに大切なことを考えよう。

- ・3～4人グループを作り、課題について議論する。
- S資料を提示するなどして、根拠を明確にして自分の意見を説明する。仲間の主張を聞くときは、疑問点を考えながら聴き、後でしっかりとあれば質問する。

賛成の立場の生徒の意見（例）

- ・私は選挙の義務化に賛成です。理由は、公平な政治が実現されると思うからです。衆議院選挙の資料を見ると、令和3年実施の選挙では、60代の投票率が71.38%であるに対し、20歳の投票率は36.50%になっています。こうした違いは、高齢者向けの政策を重視する政治につながります。政治はすべての世代に対して公平に行われるべきです。このことから私は選挙の義務制に賛成します。
- ・選挙を義務にすべきだと思います。理由は投票率が低いままでは、民主主義が機能しているとは言えないからです。令和3年の衆議院選挙の全体の投票率は55.93%で、有権者の半分程度しか選挙に参加していない現状です。これでは、十分に国民の意思が政治に反映されません。だから投票を義務化し、罰則を定めることで多くの国民が投票するようにし、日本の民主主義を守るべきだと思います。

反対の立場の生徒の意見（例）

- ・義務化に反対です。投票することは国民の権利であり、強制されるものではないからです。この資料を見てください。スウェーデンは、投票を義務化したり、罰則を設けたりしていないのに、2018年の議会選挙で87.2%と高い投票率となっています。スウェーデンの投票率が高いのは、期日前投票所が日本の50倍と多く、子どもたちへの主権者教育が充実しているからだと思います。日本もスウェーデンのように投票しやすい環境を整備し、国民の政治への関心を高め、自ら進んで投票に行く国になるべきです。
- ・義務にすべきではない。政治に関心がない人に強制的に投票させることはむしろ危険だと思う。資料によると、罰則のあるオーストラリアやベルギーでは、白票や無効票が多くなったという問題が生まれたとある。関心がない人が適当に投票したり、SNSなどの偏った情報で投票したりしては行けない。有権者が政治に関心がもてるよう教育を工夫したり、政策を分かりやすく伝えたりする工夫が必要だ。

- ・仲間の意見に対して、公民的な見方・考え方の視点から議論する。
- T「義務制にすべきか、すべきでないか、日本の民主主義の発展を図る上でどちらがよいか、議論しましょう。」
- T議論する上での留意点を説明する。
- S「投票率が上がっても、ベルギーのように白票や無効票が多くなってしまったら、本当の意味で投票で民意を政治に反映しているとは言えないと思います。」
- S「主権者教育を充実させるという意見はよいと思いました。しかし、その成果が表れるのには時間がかかります。少子高齢化が進む日本において、若者の投票率は高くあるべきです。世代間の公平を高めた政治はすぐにでも実現されるべきです。」
- S「義務制にしないなら、どのようにして若者の投票率を高めるのか。若者が投票をしなければ、政治家は高齢者向けの政策を優先させてしまうと思う。義務化して投票をすることが当たり前になれば、若

・『生徒指導の実践上の視点』を踏まえ、他者の意見を尊重しながら、自分の意見を主張することで、共感的な人間関係の育成を図る。

・事前に生徒の意見を整理し、意見や根拠が異なる生徒同士でグループを編成する。

◆「日本は選挙を義務制にすべき。賛成か反対か」について、根拠を示して自分の意見を説明することができる。

思考・表現・判断

【ワークシート】

・議論を深めるために、「義務化してまで、若者を投票に参加させたいのはなぜか」や「投票率が高ければ、日本の政治は民意を反映しているといえるのか」、「義務化をしないなら、どのようにして自ら投票する有権者を増やすのか」など問い返す。

	者が政治について知るきっかけになる。政治家も若者が投票するようになれば、若者向けの政策も重視すると思う。」	
まとめ 10分	<p>・議論を踏まえて、自分の意見を再構築し、課題についてまとめる。</p> <p>T「日本の選挙は義務制とする。賛成か反対か、について議論しました。議論を通して学んだことや考えたことを踏まえ、自分の意見をまとめましょう。仲間の意見や議論から、自分の意見に付け足してもよいですし、意見を変えてもよいです。現在の日本は、投票を義務化していません。そのことを踏まえて、日本の民主主義の優れた点が活かすために、あなたのようなことを大切に投票するか書きましょう。」</p> <p>Sワークシートに自分の再構築した自分の意見を記述する。</p> <p>(例) 投票を義務化することに賛成だ。義務化で投票率を高め、政治の正当性を高めることができる。また、政治の世代間の公平さが向上し、今よりさらに民意を反映した政治にあると思う。反対側から、政治に関心がない人の投票が増えるのはよくないのではという意見があった。これを踏まえ、主権者教育にも力を入れて、政治に関心をもって投票できるようにするとよいと考えた。現在の日本は投票が義務化されているわけではない。18歳になって有権者になったら、政治について進んで調べ、投票を通して自分の意見を政治に伝えることが大切だと思った。</p>	<p>◆よりよい民主主義の実現に向けて、どのような態度で投票に臨むべきか記述することができる。</p> <p>主体的に学習に向かう態度 【ワークシート】</p> <p>・『生徒指導の実践上の視点』を踏まえ、自分の考えを再考する時間を設定し、自己決定の場を提供する。</p>

(3) 評価

- ①「日本は、投票を棄権したら罰則！あなたは賛成か反対か」について、根拠を示して自分の意見を説明することができる。思考・表現・判断【ワークシート】
- ②よりよい民主主義の実現に向けて、どのような態度で投票に臨むべきか記述することができる。
主体的に学習に向かう態度【ワークシート】

評価Aについて	評価Bについて	評価Cについて
「日本は、投票を棄権したら罰則！あなたは賛成か反対か」について、投票の意義や民主主義に着目し、多面的・多角的に考察し、根拠のある意見を記述することができる。	「日本は、投票を棄権したら罰則！あなたは賛成か反対か」について、投票の意義や民主主義に着目して考察し、グループの生徒の意見や教師の助言、支援を得て、根拠のある意見を記述することができる。	「日本は、投票を棄権したら罰則！あなたは賛成か反対か」について、根拠が曖昧であるが、意見を記述することができる。

6 実践を振り返って

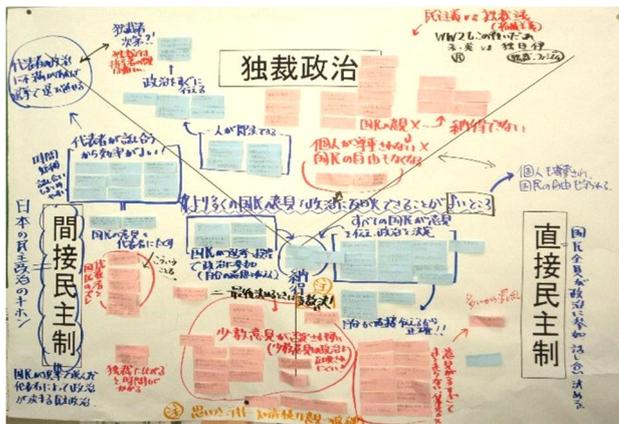
(1) 授業の実際（研究テーマに迫る手だてから）

- ① 生徒の問いや願いを大切に、単元を貫く学習課題を設定する。

第一次：民主主義の長所と短所を考察する活動を通して、単元を貫く学習課題を設定した。事前に行ったアンケートの結果を生徒に提示し、民主主義の意味や長所を確認した。イギリスの第61、63代首相を務めたチャーチルの「民主主義は□の政治形態だ」という言葉を紹介し、□に当てはまる語句を予想させた。生徒は、「最高」や「最善」など肯定的な語句を予想した。「最悪」が正解であることを示すと、生徒たちは「えっ」と驚いた反応をした。そこで、「本当に民主主義は最悪だろうか」と問い、学習課題を民主主義の長所と短所を考察することにした。

生徒は、民主主義の長所を「より多くの国民の意見を政治に反映させることができるから、国民が納得できる政治になっていく」ことや、「国民の権利や自由が守られる政治」であること、「国民の意思で政治を変えることができる」ことなどを挙げた。短所には、「少数意見が否定されやすい」ことや「政治の決定までに時間がかかる」ことなどが挙げられた。図1のように長所と短所を整理し、学級全体で共有した後、「国民の政治に対する理解や関心が低いと、政治の質が落ちるのは

ないか」や「投票に行く人が少ないと、よさが生かされないことがある」という意見に注目させ、「民主主義を採用していれば、よさは生かされるのだろうか」と問い返した。生徒は、「国民の努力が必要だと思う」や「政治家は、少数意見を尊重すべき」と答えた。ここで、単元を貫く学習課題を「日本の民主主義のよいところを生かすにはどのような工夫が必要か」を設定し、生徒に予想を記述させた（図2）。



単元の学習前のあなたの考え
 公約とやりとりし、加わりたくて政治家。
 国民の意見が反映されやすいが、知識の足りない国民が多いように思うこと。

単元の学習前のあなたの考え
 99%の人の意見が反映された政治はいいが、私は選挙に参加する人が少ない
 と思うので、99%の人の意見を取り入れるために、全国民が参加することが大切

単元の学習前のあなたの考え
 有権者が政治選挙についてよく知る。考える。
 選挙で、各教派の意見を聞いて、自分で決めた意見は、
 してもいい補正を行えば、99%の意見が反映される。(仮定)

〔図1 民主主義の長所（青）と短所（赤）〕 〔図2 単元を貫く学習課題に対する生徒の予想〕

② 根拠のある意見をもつ必然性を生徒が納得する学習課題や活動を設定する。

ア 第三次：衆議院議員選挙の投票率の推移と、令和3年衆院選の年齢別投票率、「世界の投票率ランキング（授業者作成）」の資料を基に日本の選挙の課題を考察した。生徒は、教科書や資料集などの資料を参考にして、「若者の投票率が低いから、若者の意見が政治に反映されず、高齢者向けの政策が重視されるかもしれない」や、「投票率が低いと選挙や議会の決定の信頼性も低下する」と考察した。「投票率が今のままで、民主主義のよさを生かすことができるだろうか」と問い、次の学習課題を「投票率を上げるために、どのような工夫が考えられるか」に設定し、何を調べるかを確認した。生徒は、投票率の高い国の選挙の取組を調べることにした。配付した投票率の高い国（オーストラリア、スウェーデン、ベトナムの3か国）の資料やタブレット端末で調べたことを参考に投票率を上げるための方法として、「投票の義務化」や「主権者教育を強化すること」、「期日前投票所などの環境を充実させること」が提案された。「これらの中で、効果的な提案はどれだろうか」と問うと、生徒全員が「投票の義務化」と答えた。「日本で投票を棄権したら罰金とし、義務化したら、あなたは賛成ですか、反対ですか」と問うと、出席生徒28人中、賛成14人、反対14人と意見が分かれた。

イ 第四次：前時の学習を受けて、「日本は、投票を棄権したら罰則！賛成か反対か」という課題を設定し、討論活動を設定した。「討論に向けて、相手に意見を主張する上で大切にすべきことは何だろうか」と問いに対して、根拠を示すことを確認し、資料を基に立論させた。意見を記述するワークシートは、京都大学大学院教育学研究科教授の松下佳代氏が考案した対話型論証モデルを参考にして作成した（図3）。このワークシートでは、「主張」の前段階として、「事実・データ」や「論拠（事実・データを主張と結びつける理由）」を記述する。生徒は、この手順を踏み、根拠のある意見（主張）を記述することができた。

③ 生徒が根拠のある意見を表現できるよう、資料やワークシートを工夫する（図3）。

ア リーディングスキルや「南中学校授業ユニバーサルデザイン」の視点から資料を作成した。資料を作成する際に留意した点は次の(ア)～(カ)である。

- (ア) 一文が長く文の構造を捉えにくい文章は、文章を短く区切る。【係り受け解析】
 - (イ) 生徒が資料の文章を読む際に、躓く語句を確認し、資料中に意味や言葉のルビを加える。
 - (ウ) 教科書や資料を正しく読むための方法（文章に線を引くなど）を明確にして生徒に伝える。
- 次の(エ)～(カ)は、生徒が資料を読み取る際の授業者の働きかけの例である。

- (e) 生徒があいまいな表現をした際は、問い返しを用いて具体的な表現を促した。
 - (f) なぜそう考えたか、根拠や理由を説明させたり、妥当性を判断させたりした。【推論】
 - (g) 生徒の意見が、どの資料を基に述べられているかを確認することで、資料を読み取って何を考えたかを言葉で表現できるようにした。【イメージ同定】、【推論】
- イ OPP (ワンペーパーポートフォリオ) に単元の学びを記録させ、学習してきた内容を根拠に意見を形成できるように促した。

単元の学習計画

時間	学習課題	学習の振り返りや単元の課題の解決にかかわること
0	1 民主政治ってなんだろう 「民主主義のよい面とそうでない面を考えよう」	
1	2 国民の代表を選挙 「民主主義のよさを生かすために、どのような選挙の仕組みになっているのか」 (1) 小選挙区制と比例代表制を比較し、それぞれの仕組みや長所・短所を考える。 (2) 小選挙区比例代表並立制を採用する理由を言える。	小選挙区制は、候補者を連立選挙で選ぶのが特徴。政府は選挙で決まる。中野の選挙区は、有権者が選ばれる。この2つを組み合わせると、自派が自派というよりも、国民の意見を反映して民主主義に近づける。
2	3 18歳選挙権と私たち 「日本の選挙の課題は何だろう」 (1) 日本の選挙における課題を調べ、その問題点を理解している。 (2) 現在の日本で取り組まれている課題の解決策を調べる。 「日本の選挙の課題の解決にはどのような方法があるだろう」	今の日本の選挙は、民主主義のよさを生かしてはいる。でも、若者の投票率が低いこと、立候補者が、高齢者に多いこと、政治家の報酬が高すぎることを若者が不満に感じている。

【図3 OPPシート (左) や対話型論証モデルを参考にして作成したワークシート (右)】

(2) 研究テーマに関わる評価

本実践は、ワークシートの生徒の記述と単元後のアンケート結果から評価した。

- ① ワークシートを中心に生徒の記述を分析し、根拠のある意見を記述できている割合から評価
- 第4次の3時間目 (本時) の後のワークシートを評価した結果は、以下のとおりである。

「日本は、投票を棄権したら罰則！あなたは賛成か反対か」について、根拠を示して自分の意見を説明することができている。(3年2組 30人)		
A	B	C
13人 (43.3%)	17人 (56.7%)	0人

本時は、根拠を示して自分の意見を説明することができていると判断した記述を評価AまたはBとした。学級全体の30名(100%)が、評価AまたはBとなった。

図4は、対話型論証モデルのワークシートの生徒Aの記述の抜粋である。Aは投票の義務化に賛成意見であった。Aは、単元の学習を通して、若者の投票率の低さがシルバー民主主義につながるという問題意識をもち、投票を義務化すれば若者の投票率を向上し、公正な政治につながると、賛成意見の理由を記述した。図4の事実・データから、Aは、義務投票制度を導入しているオーストラリアでは、投票率92%であることに注目したことが分かる。Aは、この事実・データから「(投票の義務化が、)一番効率よく投票率を上げることができる」と考え、論拠とした。さらにAは、投票を棄権した若者の多くが、「政治に関心がない」という事実・データを資料集から読み取った。これを基に、Aは「(投票を)義務化し、今まで選挙に行かなかった人や、関心がなかった人が政治に参加する機会を作り、(政治に対する)意識を高めていくと良い」と論拠を記述した。

図5は、生徒Bのワークシートである。Bは、根拠を基に意見を記述したり、筋道を立てて意見を書いたりすることが苦手である。Bは、タブレット端末で調べた「若者の投票率が低い理由」を事実・データとした。この事実・データから、Bは「政治や政策に十分な知識がない人が政策の中身を吟味せずに、政治家の人気などに基づいた投票をするかもしれない」と論拠を整理し、投票の義務化に反対する意見を書いた。AやBのように、生徒はワークシートに沿って事実・データと論拠を記述することで、自分の思考を整理し、根拠のある意見を記述することができた。

対話型論証モデルを活用したことで、生徒は、自分とは相反する意見を受け止めつつ、自分の主張を擁護するための反駁を考えたり、自分の意見を捉え直したりすることができた。生徒Aは、「投票の義務化によって、政治についてよく分かっていない人が投票することになる」という反対意見に対して、スウェーデンの主権者教育を参考にして「(投票を義務化するだけでなく、) 幼いころからの(主権者)教育が大切」であると反駁した(図4)。このモデルを活用したことは、正反対の意見を持った生徒同士が、対話的に思考を深めていく上で効果的であったと考える。

事実・データ (一部抜粋)

- 日本の投票率は53.68%
特に若者の投票率が低い。
→ 政治に関心がない。
- 義務投票制度を導入している国
オーストラリア 92% 罰金
シンガポール 96% 選挙人名簿からの抹消
投票率が高い!

論拠

- 義務投票制度にすることで、参加率が良く投票率を上げることができる。
- 若者は政治と自分の人生に関係の深いものと思っている人が多い。
↓
義務化により選挙に参加しやすくなり、意識を働かせることができる。

主張

(賛成 or 反対)

私は日本の投票を義務とし、選挙の棄権には罰金を科すことに賛成である。なぜなら、他の国や今日本が取り組んでいる活動を見たとき、参加率が良く投票率を上げることが出来ると思うからである。そして義務化することで投票に付く人が増え、選挙に行かなかった人も政治に参加できる機会を増やし、意識を高めたいと思います。今は比例-民主制だけど義務制にすることで若者の投票率が増え、若者中心の政治が増え、公正な社会になると考えました。

反駁 (一部抜粋)

適当に投票する人も減らなければ、幼いころからの教育が大切だと思います。選挙の重要性を知らなければちゃんと投票する人が増えると考えました。

[図4 生徒Aのワークシートの抜粋]

事実・データ

調査人数... 1020人
調査した日... 2024年...

<若者の投票率が低い理由>

- よくわからない、判断できない... 40.4%
- 投票しても政治は変わらないと思うから... 39.8%
- 投票したい政党がないから... 37.9%
- 優先順位が低い、面倒... 27.5%
- 時間がない、忙しい... 20.7%

論拠 (事実・データを主張と結びつける理由)

政治や政策に十分な知識がない人も投票してしまうことにより、政策の中身を十分に吟味せず、政治家の人気などに基いた投票が増えるかもしれない。←このような選挙は避けたい。

主張

(賛成 or 反対)

選挙を棄権すると、お金がとられてしまうため、政治についてよくわからない、判断できないという人が政策の中身をよく吟味せず、適当に投票してしまう人が出てくると思う。良い政治にならない。

[図5 生徒Bのワークシートの抜粋]

② 単元の学習前と後の生徒の意識や記述を比較し、生徒の変容を評価する。

2 「政治」に関心がありますか。				
単元前	大変関心がある (0%)	関心がある (37.9%)	あまり関心がない (62.1%)	関心がない (0%)
単元後	大変関心がある (3.6%)	関心がある (89.3%)	あまり関心がない (7.1%)	関心がない (0%)
肯定的な回答の理由				
<ul style="list-style-type: none"> ・選挙に参加するときに、知っているのと役に立つから。 ・政治の仕組みや投票の意味がよく分かったから。ネットニュースを読むようになった。 ・投票で意見を政治に反映するために、政治を理解したいと思ったから。 				
3 選挙権を得たら、選挙に行き投票をしますか。				
単元前	選挙に行く (79.3%)	選挙に行かない (6.9%)	分からない (13.8%)	
単元後	選挙に行く (80%)	選挙に行かない (3.3%)	分からない (16.7%)	
肯定的な回答の理由				
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の一票で政治に（意見を）反映できると考えたから。 ・自分たちの一票が日本の政治の方向性を決めることを知ったから。 ・若者の意見を反映させたいから。 				
「選挙に行かない」と回答した理由				
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の性格に合っていないと思うから。 				
「分からない」と回答した理由				
<ul style="list-style-type: none"> ・今は投票しようと考えているが、選挙権を得たときにならないと分からないから。 				

単元の後に、政治、選挙に対する生徒の意識を把握するためのアンケート（N=30）を12月に実施した。単元後のアンケートでは、「2『政治』に関心がありますか」や「3選挙権を得たら選挙に行き投票しますか」のいずれの質問も肯定的回答が増えた。肯定的な回答の理由には、「投票で意見を政治に反映するために、政治を理解したいと思ったから」や、「自分たちの一票が日本の政治の方向性を決めることを知ったから」など、政治や投票に対して、主体的な態度を示す記述があった。

生徒C（以下C）は、単元前のアンケート「3選挙権を得たら、選挙に行き投票をしますか」に対して「分からない」と回答した。その理由は、「自分が選挙に行くときに、この人に投票したいと思う人がいるとは限らないから」であった。

Cは、討論の中で「若者が全員投票しても、高齢者の数には届かない。だから、義務にしても若者向けの政治になるとは限らない。」と投票義務化に反対を主張していた。賛成側から「若者が投票することで、政治家に若者の意見を届けることはできる」という反論を受けたが、Cは、「選挙で自分が選んだ人が当選しなければ、死票になって意味がない」とさらに反論した。その様子を近くで聞いていた授業者は、Cのグループの生徒に令和6年10月23日の衆議院議員選挙の年齢別比例投票先（ANN出口調査）を示し、「20代の若者が最も支持していた政党はどこだろう」と質問した。生徒は全体のデータから、X党（仮称）が20代からの支持を集め（全体の26%）、若者世代の投票が集まっていたことに気付いた。「X党について知っているか」と問うと、「最近のニュースで見た」、「話題になっている」などの反応が出てきた。さらに、「この結果から、若者の投票では政治を変えることはできないと言い切れるか」と問い、Cらに話し合いをもたせた。賛成側の生徒は、「若者の投票が集まったということは、X党は若者向けの政策をしているのかもしれない」と発言した。Cは、「確かに、（若者の投票が）意味がないとは言えないかも」と話した。

図6は、授業後のCの記述である。Cは、「（若者が）投票に行けば、そういう（若者のための政策を掲げる）政党ももっと増えるのかもしれないと思いました」と述べた。Cの考える投票の意義が単元を通して深まったことを示している。

③ 若者世代投票に力として、高齢者の投票率に勝つことは不可能だと、若者向けの政策を掲げた政党が、投票に行くとしたら、投票率も増えるかもしれない。自分も投票に行くとしたら、投票率も増えるかもしれない。以上、投票率が増えるか、という点について、

〔図6 第4次3時間目（本時）の後の生徒Cの記述〕

(3) 今後の課題

- ① 話し合いの論点を整理し、論点を焦点化して話し合いをさせる。

本時の討論活動では、投票の義務化について賛成か反対かを討論させた。根拠をもって自分の意見を説明することに対しては、成果を挙げたと考えている。7 (2) ②でも述べたように、討論を通して、投票の意義に考えを深める生徒の様子も見られた。

一方で、議論が平行線になり、かみ合わずに停滞しているグループもあった。5 (2) 本時の展開の中にも設定していたように、「投票率が高ければ、日本の政治は民意を反映しているといえるのか」、「義務化をしないなら、投票率は現状のままで民主主義のよさを生かしていると言えるのか」と、学級全体に問い返すことで議論を深める手立てが必要であった。他にも、生徒Bのグループのように討論を通して出てきた問題点を学級全体で共有し、論点をそろえて話し合いをすることも可能であった。論点を絞って討論を行うことで、投票の意義や民主主義の在り方について深く考察できたと考える。

今後、こうした討論活動を行う際は、論点を予め整理する。そして、論点を絞った話し合いを展開できるように、生徒の発言や記述をよく観察して発問する。

- ② タブレット端末を効果的に活用する。

本実践でもタブレット端末の利用は、調べ学習での使用に限られていた。個別最適で協働的な学びを推進していく上で、タブレット端末を活用した交流場면을効果的に行うことができれば、単元の指導時間を短縮でき、生徒の学習活動がより効率的であると考えられる。

- ③ 研究テーマに迫る手立てを絞る。

本研究では、手立てが多岐にわたったため、生徒の変容や成果と手立てとの相関がぼやけてしまった。研究実践では、目指す生徒の姿を明確化した上で、主な手立てを1つまたは2つに設定し、手立てと生徒の変容との相関を評価できるようにする。

7 参考文献等

- ・『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』文部科学省（東洋館出版社）
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会』文部科学省国立教育政策研究所（教育課程研究センター）
- ・『単元を貫く学習課題でつくる！ 中学校公民の授業展開&ワークシート』川端裕介 著（明治図書）
- ・『社会科教育 教育科学 2019年12月号 他律と合意で考える！思考を深める「討論教材」25選』（明治図書）
- ・「松下佳代著 『対話型論証による学びのデザイン -学校で身につけてほしいたった一つのこと』」
竹内 元（宮崎大学）日本教育方法学会紀要『教育方法学研究』第47巻・2021年度（2022年3月）